

課題になっている行動（気になる行動）

教えられても理解が難しく
仕事が正確にできない



監修・文 水野敦之 絵：宗貞由貴子

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
■ 様々な状況の変化 指示の内容や伝える方が変わる ■ 影響を与える刺激や情報 情報が複雑で明確ではない 情報が多い 手がかりがフェードアウトされない ■ 必要な支援がない 本人にあわせた指示が無い 見通しが伝えられてない 本人にあわせた手がかりがない □その他	■ <u>受容コミュニケーション</u> の特性：複雑な指示が理解 できない ■ 社会性・対人関係の特性 ■ <u>全体よりも細部に注目す</u> る特性：情報が多くて混乱 する ■ 想像思考の困難さ ■ 変化の対応の特性：指示の変 化に対応できない	■ 習慣になっているものがある 以前やったやり方に引っ張られる ■ 自分流の気づき・考え方をもち 間違えると怒られる 何が正しくて、何が間違っている かわからない ■ 過去に経験したこと学んだこと 指示通りやって注意された経験 □ 過去に経験したことにより恐怖や嫌 悪感をもっていること
■ 行動前の状況※ 明確な指示がない 複雑でわかりにくい指示 過剰な手がかり		■ 行動後の状況・結果※ さらに複雑な情報で修正される 起こられる

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき
教える場面はある	文章、図解、絵、写真の理解 モデルは理解できる	成功したい うまくなりたい

支援計画 ※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります		
環境を変える部分は？	本人の特性にあわせた支援は？	本人に伝える・教える部分は？
・教える指示の量を調整する。 ・手がかりを最小限にする。	・一貫した情報で教える。 ・本人が理解できる文章や絵な どを活用した視覚的指示書を準 備する。	・最小限の手がかりで、計画的 にフェードアウトする。 ・間違っている時は、モデル提 示などで修正する。 ・できた部分をフィードバック する。

解説と支援の方向性について

複雑でわかりにくい情報では混乱することがあります。『手取り足取り』たくさん関わりの中で教えることは、情報が複雑で、何に注目していいかわからなくなります。また、言語指示は不安定で部分しか残らなかったり、指示全体を整理することが困難な場合があります。

適切で最小限の手がかり（言語指示、ジェスチャー、モデル、手添えなど）で教えることが大切です。必要によっては、自閉症の人が注目しやすく、整理しやすい視覚的な情報で伝えることが重要になります。